

三輪地区防災計画

令和 7 年 3 月 1 日策定



三輪地区住民自治協議会

三輪地区自主防災組織連絡会

防災委員会

<目 次>

1	計画の目的	・ ・ ・ ・	P1
2	活動方針		
	(1) 防災意識の向上を図る	・ ・ ・ ・	P1
	(2) 自助・共助による被害の軽減	・ ・ ・ ・	P1
	(3) 相互支援体制を構築する	・ ・ ・ ・	P1
3	三輪まちづくり計画・各種マニュアルとの関連	・ ・ ・ ・	P1～P2
4	三輪地区の特性と災害		
	(1) 三輪地区の特性	・ ・ ・ ・	P2
	(2) 大規模災害で懸念される事項	・ ・ ・ ・	P2
	(3) 被害想定（長野市地域防災カルテ）	・ ・ ・ ・	P3～P4
	(4) 過去の災害	・ ・ ・ ・	P4～P5
5	防災体制		
	(1) 三輪地区の防災組織	・ ・ ・ ・	P6
	(2) 三輪地区災害対策本部の開設と組織	・ ・ ・ ・	P7～P8
6	具体的な防災活動		
	(1) 災害時の防災活動	・ ・ ・ ・	P9～P10
	(2) 平時の防災活動	・ ・ ・ ・	P11
7	災害時要援護者の支援		
	(1) 災害時の支援	・ ・ ・ ・	P12
	(2) 災害時の支援（災害対策本部が設置されたとき）	・ ・ ・ ・	P12
	(3) 平時の支援	・ ・ ・ ・	P12
8	防災関連施設、資機材、備蓄品		
	(1) 避難施設	・ ・ ・ ・	P13
	(2) 防災備蓄倉庫	・ ・ ・ ・	P13
	(3) 防災資機材・備蓄品の相互融通	・ ・ ・ ・	P13
	(4) 通報先・情報入手先	・ ・ ・ ・	P14
	○ 資料 1 役割分担	・ ・ ・ ・	P15
	○ 資料 2 三輪小学校の防災倉庫備蓄品一覧表	・ ・ ・ ・	P16
	○ 資料 3 三輪自治協の備蓄品一覧表	・ ・ ・ ・	P17

「三輪地区災害対策本部運営マニュアル」 「自主防災会報告マニュアル」
「避難所開設マニュアル」

1 計画の目的

本計画は、「住民及び自主防災組織が平時及び災害時の取り組みを整理し地域で共有することで、災害による被害の軽減や早期の復興につなげることを目的とする。

本計画を踏まえ、各区の地域特性に応じた「自主防災会防災計画」の策定を推進する。

なお、三輪地区住民自治協議会と各区、三輪支所（長野市）の役割分担を資料1に示す。

2 活動方針

(1) 防災意識の向上を図る

災害に対して被害を最小限に抑えるよう平時から効果的な訓練を行い、住民同士が防災への知識、技術の向上と助け合いの精神により「安心して暮らせる災害に強いまち」づくりを実現する。

(2) 自助、共助による被害の軽減

住民自ら「自分の命は自らが守る」という意識を持った防災対策と、自主防災組織による活動を中心とした自助、共助により被害の軽減を図る。

(3) 相互支援体制を構築する

三輪地区で災害が発生した場合、被災の有無及びその程度は、区により異なると想定される。広域災害では、公的支援が大きく出遅れることも想定される。被害がなかった区が被災した区を支援できる体制の構築を目指すものとする。

支援の例

（災害想定1）浅川、鐘鑄川が氾濫・浸水が予想される。

（災害想定2）長野盆地西縁断層地震発生：〇〇区、△△区に家屋倒壊が多数発生。

（災害想定3）大火災が起き、家屋消失が多数発生。

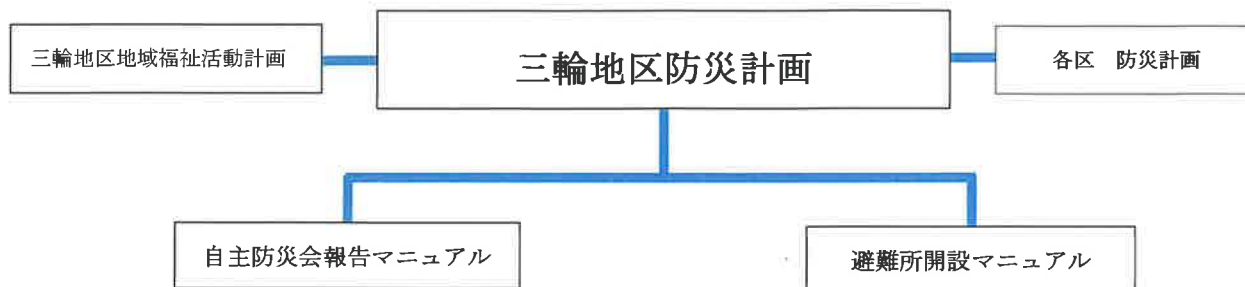
被害の無い区による

- ・人的支援、物資の支援
- ・避難所の提供、運営支援
- ・危険がせまる公民館の代替施設提供 等

3 三輪地区地域福祉活動計画・各種マニュアルとの関連

三輪地区防災計画は、三輪自治協の総合計画である「三輪地区地域福祉活動計画」にある誰もが安心して、快適な環境で暮らせるまちづくりを目指し策定したものである。

「自主防災会報告マニュアル」及び「避難所開設マニュアル」は、本計画「5 防災体制」の内容をより具体的に示したマニュアルとして位置付ける。



4 三輪地区の特性と災害

(1) 三輪地区の特性

- ・ 地区内人口・世帯数 : 16,000 人・7,900 世帯
- ・ 浅川扇状地でやや傾斜がかかる平坦地であり、水害・土砂災害が起きにくい。
- ・ 住宅が密集しており木造化率が高い。
- ・ 福祉（高齢者・障害者）施設は地区内に約 30 施設あり、教育施設も保育園から大学まで存在する文教地区である。

(2) 大規模災害で懸念される事項

- ① ハザードマップから水害が起きにくいと思われるが、浅川流域は河岸浸食による氾濫想定区域であり要注意。過去に浅川、鐘鑄川が氾濫した経緯もあり危険は皆無ではない。0.5m未満の浸水深さの予測ではあるが、要支援配慮者は個別避難計画が必要。民生委員と一緒に事前に検討しておく必要がある。
- ② 市内でも有数の住宅密集地で、道路も狭く火災発生の場合、大火になる危険性が高い。木造建物密度も最高レベルに高い（2,230 棟/k㎡）ので、火災の際は初期消火が重要。
- ③ 長野盆地西縁断層帯地震の発生確率は 2110 年までほぼ 0。約 1000 年間隔で発生しており、最後は 170 年前の善光寺地震なので、あと数百年は発生しないと言われているが、地震は頻繁に発生しているので注意が必要。
- ④ 糸魚川－静岡構造線断層帯地震の発生確率は 2040 年まで 14%、2060 年まで 20%程度であるが、同様に注意が必要。
- ⑤ 三輪地区の高齢化率（65 歳以上）は約 30%であり、昼間帯は若者が不在となり、大災が発生した場合の対処方法を事前から検討しておく必要がある。

(3) 被害想定（長野市地区防災カルテ）

① 地震

ア 長野盆地西縁断層帯の地震による三輪地区の被害予測（冬季 18 時）

「長野盆地西縁断層帯」は、長野盆地の西縁に沿って分布する活断層帯。最新の活動は、1847 年の善光寺地震（マグニチュード 7.4）と考えられ、飯山―千曲区間の断層では、平均活動間隔は、800 年から 2500 年と考えられる。

地震動

震度	震度 6 弱～7
----	----------

建物被害

全壊	936 棟	14.5%
半壊	819 棟	12.7%

火災被害

全出火件数	3 件	0.0%
焼失棟数	1,059 件	16.4%

人的被害

死者数	57 人	0.4%
負傷者数	298 人	1.9%
避難者数（一週間後）	6,803 人	42.3%

ライフライン被害

上下水道被害	17 か所
都市ガス停止戸数	1,684 戸

被害の様子

最大震度 7 の強い揺れ、液状化、土砂災害また、古い木造建物が多いことから、全壊 936 棟（西部では全壊率約 50%）、57 人の死者が予測される。冬 18 時の想定では、延焼火災による被害が予測される。

イ 糸魚川―静岡構造線断層帯の地震による三輪地区の被害予測

（冬季 18 時 震度 5 弱～6 弱）

「糸魚川―静岡構造線断層帯」とは、長野県北部から山梨県南部にかけて延びる活断層帯。小谷―明科区間での 30 年以内の発生確率は 0.009%～16%。

地震動

震度	震度 5 強～6 弱
----	------------

建物被害

全壊	80 棟	1.2%
半壊	347 棟	5.4%

火災被害

全出火件数	0 件	0.0%
焼失棟数	762 件	11.8%

人的被害

死者数	4 人	0.0%
負傷者数	77 人	0.5%
避難者数（一週間後）	2,914 人	18.1%

ライフライン被害

上下水道被害	6 か所
都市ガス停止戸数	0 戸

被害の様子

最大震度 6 弱の浅川沿いの液状化、土砂災害により、全壊建物 80 棟、死者 4 人が予想される。

② 水害・土砂災害

土砂災害警戒区域／土砂災害特別警戒区域

	土砂災害警戒区域	土砂災害特別警戒区域
急傾斜地	0 箇所	0 箇所
土石流	0 箇所	0 箇所
地すべり	0 箇所	0 箇所

土砂危険箇所

急傾斜地	0 箇所
土石流	0 箇所
地すべり	0 箇所

浸水想定区域

浅川の想定最大規模	最大 3.0m
*1000年に一回の確立の最大規模降雨による浸水状況	
県管理9河川	最大 0.5m

被害の様子

西部の三輪8丁目付近で急傾斜地警戒区域、急傾斜地崩壊危険箇所が指定されている。隣接地区には急傾斜地特別警戒区域もあり、土砂災害に注意する必要がある。
北東部で浅川の氾濫により最大3.0m程度の浸水が想定されており、安全な避難が課題である。

(4) 過去の災害

過去の災害を検証し災害対応の教訓とする。

災害名／発生日月	災害状況	教訓とする事項
善光寺地震 弘化4年(1847年) 5月8日	震源地：長野盆地西部 規模：マグニチュード7.4と推定 被害状況：死者約8,600、潰れた家屋29,633戸、 焼失家屋3,300戸	・地震による崩壊、火災等により大災害となる。 ・犀川右岸の岩倉山（虚空蔵山）が崩壊して犀川を堰止め、数十村が水没、4月13日に決壊し、大洪水となる。
論電ヶ谷池の決壊 昭和14年4月15日 20時半頃	原因：雪解の増水により飯綱山麓の論電ヶ谷池が決壊 被害：濁流が浅川に押し出し、浅川村、三輪村、吉田・古里が被害 流出家屋9戸、浸水83戸、死者9名	・豪雨以外の原因の土砂災害 ・離れた池の決壊による大災害
長沼地震 昭和16年7月15日 21時45分	震源地：長野市長沼地区付近 規模：マグニチュード6.1 余震が多数発生（2時間後の余震で大きな被害） 被害状況：長野市、上水内郡、上高井郡で住宅全壊76戸、死者6名	・時間が経過しても、より大きな余震が発生する地震がある。
松代群発地震 昭和40年8月3日～	震源地：長野市松代 規模：マグニチュード5.4(最大)M=6.4に相当 震度5が9回 4が50回 一部損壊家屋8,620戸	・長期にわたったことから、住民に不安を与えた。皆神山が1m隆起した。
新潟県 中越沖地震 平成19年7月16日	震源地：上中越沖 規模：マグニチュード6.8 最大震度は6強。 長野市では戸隠で震度5弱。150戸の住宅被害	・平成16年の新潟県中越地震に引き続いて発生。
東日本大震災 平成23年3月11日 14時46分	震源地：東北地方太平洋沖 規模：マグニチュード9.0 地震、津波およびこれに伴う福島第一原子力発電所	・翌12日3時59分に栄村に長野県北部地震を誘発。

	事故による大災害。 震度 7 で場所によっては波高 10m 以上、最大遡上高 40.1 m にも上る巨大な津波が発生した。 震災による死者・行方不明者は 2 万 2318 人、建築物の全壊・流失・半壊は合わせて 40 万 6067 戸	・マグニチュード 6.7 、最大震度 6 強。本震に続いて M5 以上の 2 回の余震が 2 時間内に相次いで発生した。
神代断層地震 平成 26 年 11 月 22 日 22 : 08	震源地：長野県北部 規模：マグニチュード=6.7 震度 6 弱（長野市） 全壊 4 戸 一部損壊 1,413 戸	・三輪地区でもブロック塀の倒壊が発生。鉄筋、補強が必要。 ・白馬の強い絆で死者 0
台風 19 号災害 令和元年 10 月 12 日	千曲川堤防の決壊、越水、内水氾濫で甚大な被害が発生。 死者 2 災害関連死 15 住宅被害 4,573 戸	・宇達神社の鳥居倒壊。 ・消防団の半鐘による避難が多くの人命を救った。

5 防災体制

(1) 三輪地区の防災組織

住民の命を守り、被害を最小限に食い止めるため、防災組織はその役割に応じて活動する。

① 自主防災組織連絡会（防災委員会） 10 区の自主防災会長である区長により構成 各区の自主防災会の活動が活性化するよう支援するとともに、防災訓練等により地区全体の災害対応力を高める。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="231 582 813 840"> (平時) ・ 防災計画等の作成 ・ 地域全体の訓練・研修の実施 ・ 各自主防災会間の情報交換 ・ 協力団体、関係行政機関との連絡調整 </td> <td data-bbox="813 582 1423 840"> (災害時) ・ 三輪地区災害対策本部の設置 ⇒三輪地区災害対策本部運営マニュアル </td> </tr> </table>	(平時) ・ 防災計画等の作成 ・ 地域全体の訓練・研修の実施 ・ 各自主防災会間の情報交換 ・ 協力団体、関係行政機関との連絡調整	(災害時) ・ 三輪地区災害対策本部の設置 ⇒三輪地区災害対策本部運営マニュアル	② 三輪地区災害対策本部 三輪自治協と三輪支所が設置 関係機関との連携調整を行うとともに、各区自主防災会の活動を支援する。 三輪支所に設置し、連携して取り組む。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="231 1075 813 1388"> (平時) ・ 本部設置訓練の実施 ・ 情報伝達訓練の実施 </td> <td data-bbox="813 1075 1423 1388"> (災害時) ・ 各区自主防災会の活動を支援 ・ 各区自主防災会の状況把握、情報提供 ・ 市その他関係機関との連絡調整 ・ 各区自主防災会間の相互応援の調整 (活動支援・物資など) </td> </tr> </table>	(平時) ・ 本部設置訓練の実施 ・ 情報伝達訓練の実施	(災害時) ・ 各区自主防災会の活動を支援 ・ 各区自主防災会の状況把握、情報提供 ・ 市その他関係機関との連絡調整 ・ 各区自主防災会間の相互応援の調整 (活動支援・物資など)
(平時) ・ 防災計画等の作成 ・ 地域全体の訓練・研修の実施 ・ 各自主防災会間の情報交換 ・ 協力団体、関係行政機関との連絡調整	(災害時) ・ 三輪地区災害対策本部の設置 ⇒三輪地区災害対策本部運営マニュアル				
(平時) ・ 本部設置訓練の実施 ・ 情報伝達訓練の実施	(災害時) ・ 各区自主防災会の活動を支援 ・ 各区自主防災会の状況把握、情報提供 ・ 市その他関係機関との連絡調整 ・ 各区自主防災会間の相互応援の調整 (活動支援・物資など)				
③ 自主防災会 各区の防災計画等により設置する。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="231 1500 813 1971"> (平時) ・ 防災計画の作成 ・ 防災知識の普及・啓発 ・ 地域の危険個所の状況把握 ・ 地域防災マップの作成 ・ 避難行動要支援者の支援 ・ 防災訓練の実施 ・ 防災資機材の整備・点検 </td> <td data-bbox="813 1500 1423 1971"> (災害時) ・ 本部の設置・初期消火、救出救護への協力 ・ 情報収集及び情報伝達 ⇒自主防災会報告マニュアル ・ 安否確認、避難誘導の実施支援 ・ 避難所の開設・運営 ⇒避難所設営マニュアル ・ 避難所の運営、炊き出し、救援物資の配布等の協力 ・ 被害状況調査、広報活動等 </td> </tr> </table>	(平時) ・ 防災計画の作成 ・ 防災知識の普及・啓発 ・ 地域の危険個所の状況把握 ・ 地域防災マップの作成 ・ 避難行動要支援者の支援 ・ 防災訓練の実施 ・ 防災資機材の整備・点検	(災害時) ・ 本部の設置・初期消火、救出救護への協力 ・ 情報収集及び情報伝達 ⇒自主防災会報告マニュアル ・ 安否確認、避難誘導の実施支援 ・ 避難所の開設・運営 ⇒避難所設営マニュアル ・ 避難所の運営、炊き出し、救援物資の配布等の協力 ・ 被害状況調査、広報活動等			
(平時) ・ 防災計画の作成 ・ 防災知識の普及・啓発 ・ 地域の危険個所の状況把握 ・ 地域防災マップの作成 ・ 避難行動要支援者の支援 ・ 防災訓練の実施 ・ 防災資機材の整備・点検	(災害時) ・ 本部の設置・初期消火、救出救護への協力 ・ 情報収集及び情報伝達 ⇒自主防災会報告マニュアル ・ 安否確認、避難誘導の実施支援 ・ 避難所の開設・運営 ⇒避難所設営マニュアル ・ 避難所の運営、炊き出し、救援物資の配布等の協力 ・ 被害状況調査、広報活動等				

(2) 三輪地区防災対策本部の開設と組織

大災害時は区長はじめ役員が、各区の災対本部に張り付き招集は困難となる。
 以下の三輪自治協の災害対策本部は、被害が一部の区に限定した場合や、平時の防災訓練の際に適用する。
 大災害時は、各区の情報連絡員が情報を、三輪支所災害対策本部に逐次報告する。

① 三輪地区災害対策本部の開設

第一次配備（自動参集）

配備	招集範囲	災害対策本部役職	配備基準
第一次配備 (自動配備)	三輪自治協会長	本部長	・市に震度5弱以上の地震が発生したとき ・三輪地区に甚大な被害が発生したとき ・市などからの情報により被害発生が予想されるとき（三輪地区に、避難警戒レベル3以上が市から発令されたとき）等 ・三輪地区に土砂災害が発生し、本部長が必要と判断したとき ・各区自主防災会からの応援要請があったとき ・本部長が必要と判断したとき
	三輪自治協副会長	副本部長	
	防災委員会委員長	班長	
	防災委員会委員	班員	
	三輪自治協事務局長	班員	

※ 直ちに三輪地区災害対策本部に参集する。

地区内に被災地域があり、本部拡大が必要な場合



第二次配備

配備	招集範囲	配備基準
第二次配備 (本部長招集)	参集可能な役員	・本部拡大が必要な場合、本部長の招集で配備

地区に支援要請があった場合

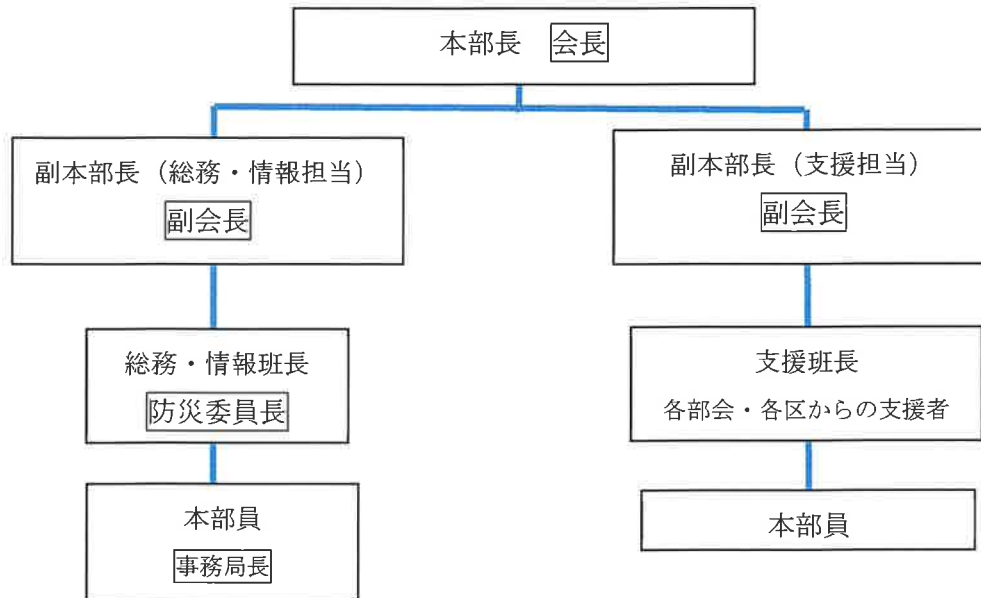


第三次配備

配備	招集範囲	配備基準
第三次配備 (本部長招集)	参集可能な役員	・地区内に避難所が開設されるなど、市から支援要請があった場合、本部長の招集で配備
	その他団体代表 (日赤奉仕団、民生児童委員協議会等)	

②災害対策本部組織

ア 組織図



イ 業務分担

班名	担当名	業務
総務・情報班		招集、本部人員把握、本部の役割分担（人事配置） 本部運営物品の確保、災害に関する情報等の集計 本部活動記録、会計
		本部設置報告、各区の状況把握、各区本部との連絡調整 記録集計
		市その他関係機関へ本部設置連絡 市その他関係機関との連絡調整、情報収集、記録集計
		現地調査、伝令
支援班	(1) 避難行動要支援者 救護・援助担当	避難行動要支援者 救護・援助に関する支援
	(2) 避難所担当	避難所設営、運営支援

6 具体的な防災活動

(1) 災害時の防災活動

① 地震

時系列	各個人の行動	自主防災会の活動	災害対策本部の活動
地震発生	・身の安全確保 (丈夫な机の下など) ・火の始末	・自身と家族の安全確保	・マニュアル本部設置基準に基づき第一次体制により本部設置(参集) ・本部拡大が必要な場合、第二次、第三次配備の要請
揺れの収まり	・家族の安全確認 ・隣近所の安全安否確認 (漏電・ガス漏れ・余震に注意) ・避難の判断 建物倒壊のおそれ 火災延焼のおそれ 土砂災害のおそれ (避難の際はガス元栓閉めブレーカー落とす。)	・土砂災害などからの迅速な避難支援 ・救出支援救護の協力 ・初期消火活動 ・地区内被害状況収集 ・消防署への通報 ・被害情報を支所又は市へ連絡	・各区自主防災会、防災関係機関に本部設置の連絡・参集者で役割分担 ・各区の被害状況報告を受ける ・消防・行政の情報収集、区への情報提供 ・本部会議開催(対応協議) ・自主防災会への支援活動調整
避難		・住民の避難支援 ・災害時要支援者の避難支援 ・負傷者の手当、搬送の協力	
避難所	・秩序ある避難生活 ・運営の協力	・避難所の設営、炊き出し、救援物資配分等の協力 ・物資需要の把握 ・市・関係機関へ情報伝達 ・災害時要支援者への配慮	・避難所運営体制の調整、避難所運営支援 ・本部規模の検討

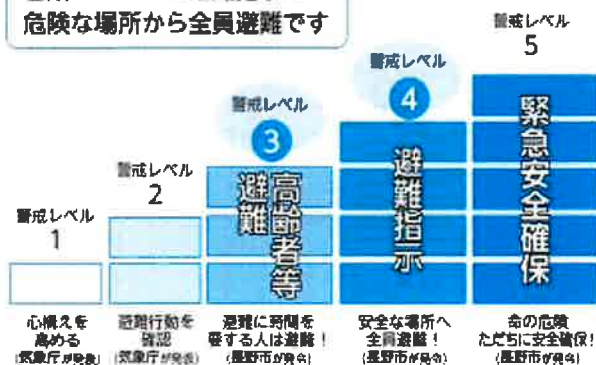
<地震の心得10か条>

1. まず、わが身の安全を図れ
2. あわてずに火の始末を
3. 非常脱出口を確保
4. 火が出たらまず消火
5. あわてて戸外に飛び出すな
6. 狭い路地、塀ぎわ、ガケや川べりに近寄らない
7. 山崩れ、ガケ崩れ、土石流、浸水に注意
8. 避難は徒歩で、持ち物は最小限に
9. みんなが協力し合って応急救護
10. 正しい情報をつかみ、冷静な行動を

② 水害・土砂災害

時系列	各個人の行動	自主防災会の活動	災害対策本部の活動
警戒期	・マイタイムライン作成 ・テレビ・ラジオによる情報収集 ・市が発令する警戒レベルを確認	・自主防災会本部設置 ・浸水防止対策 ・洪水や土砂災害の危険がある場合は避難支援開始 ・災害時要支援者の避難支援 ・情報収集 ・災害危険個所巡視 ・土嚢積み	・マニュアル本部設置基準に基づき第一次体制により本部設置（参集） ・本部拡大が必要な場合、第二次、第三次配備の要請 ・各区自主防災会、防災関係機関に本部設置の連絡
風水害・土砂災害発生後	・直ちに避難（避難に車は使わない。ガス元栓閉め、ブレーカー落とす。） ・非常持出品 ・家族の安全確認	・自身と家族の避難 ・住民の避難誘導活動 ・災害時要支援者の避難支援 ・水防活動 ・救出活動 ・負傷者の搬送手当 ・情報収集伝達 ・消防署・支所（市）への連絡	・参集者で役割分担 ・各区の被害状況報告を受ける ・消防・行政の情報収集、区への情報提供 ・本部会議開催（対応協議） ・自主防災会への支援活動調整
避難所	・秩序ある避難生活 ・運営の協力	・避難所設営、炊き出し、救済資配分等の協力 ・物資需要の把握 ・市・関係機関へ情報伝達 ・災害時要支援者への配慮	・避難所運営体制の調整、避難所運営支援 ・本部規模の検討

警戒レベル4＝避難指示で危険な場所から全員避難です



避難先は、小・中学校や体育館だけではなく、自宅の2階、親戚や知人宅、ホテル・旅館、車内などの安全な場所で待機することなどが考えられる。新型コロナウイルス感染症の感染リスクを減らすため、分散避難も検討する必要がある。

警戒レベル3は、高齢者のためだけの情報ではなく、障害のある人やその支援者も含まれる。

警戒レベル5は、すでに災害が発生・切迫している状態。

(2) 平時の防災活動

① 自主防災会の防災訓練

住民の命を守るため、災害時被害を最小限に食い止めるためには、普段から協力し支えあう関係づくりと地域社会とのつながりを持つことが重要であり、自主防災会において継続した防災訓練が望まれる。

防災訓練を考えるポイント

- ☑ 家庭の防災力向上が一番重要（自助があつての共助）
⇒自主防災会訓練及び広報により認識を高める
- ☑ 訓練メニューの選択
⇒区民は何を望んでいるか、区民に何をやってほしいかを考え多様な訓練を選択する
訓練の際は、何のためにやるのか訓練の目的を参加者に明確に伝える
- ☑ 災害発生→「住民としてできること・やらなければならないこと」を考えてみる
⇒安否・状況確認、救出救護、初期消火・・・
- ☑ さまざまな災害への対応を想定する
⇒大地震、土砂災害、火災、河川の氾濫、集中豪雨・・・
- ☑ 講話を聞き、「知ること」も有効
⇒「自分の大切な人を守るため」必要な知識を得る。
- ☑ 自主防災会組織、いざ災害時に機能するための訓練が必要
⇒組長との情報伝達を含めた本部訓練

② 啓発活動

行政機関、消防機関による、防災知識の普及・啓発活動に加え、地区内の防災組織においても、地域住民への啓発を積極的に行い、防災意識の高揚を図る。

自主防災会連絡協議会は、地域住民への啓発とともに、自主防災会へ必要な情報を提供する。各区自主防災会は、住民一人ひとりの意識を高めるため、地域特性を踏まえ多様な方法による啓発を行う。

自主防災会連絡協議会の活動実績

○ 講演会

多種多様な講師を招いて防災講演会を開催（信州大学、長野県、長野市、消防局等）

○ 視察

白馬村「神城断層地震～白馬の奇跡～に学ぶ」

○ 図上訓練

避難所運営ゲーム

○ 実技訓練

消火訓練、救護訓練、AED 取扱い訓練 等

○ 各自主防災会の事例発表

小学校と地域が協同で取り組む防災対策

- 1 防災授業（毎年、各校へ出向き5学年に出前授業「災害から自らの命を守る」）
- 2 小学校避難所開設マニュアルの策定
- 3 学校防災備蓄品の確認とその使用方法を研修

7 災害時要援護者の支援

(1) 災害時の支援

- ① 災害時要援護者が被災した可能性があるときは、避難支援関係者は電話などの通信手段又は現地確認により担当地区の要援護者の状況を確認の上、記録する。
- ② ①により要援護者の被災が明らかとなり、援助が必要であり、かつ当該者が自ら関係者に連絡をして援助を得ることができないなど、担当の民生委員や区長が関係機関等への通報が必要と判断したときは、当該民生委員又は区長は関係者や市、消防機関、医療機関に連絡して当該者が必要な援助を得られるようにする。

(2) 災害時の支援（災害対策本部が設置されたとき）

- ① 災害対策本部が設置されたときは、本部支援班が中心となり三輪支所職員などと協力をし、各区の要援護者の状況を確認して記録する。
- ② 避難の必要がある場合で、要援護者が関係者からの援助を得られず避難が困難な場合は、本部支援班の判断により避難援護を行う。ただし、援護者に危険が及ぶ可能性がある場合は自ら援護活動を行うのではなく、消防局等に状況を報告し援助の依頼をする。
- ③ ②の状況について記録するとともに、要援護者自らが親族等関係者に連絡ができない場合は、親族等関係者に要援護者の被災、避難の状況などの連絡を取る。
- ④ 避難所での生活を送る必要がある場合は、避難所管理者に要援護者であることや被災状況・体調について連絡し避難生活上必要な措置を講ずるよう要請する。

(3) 平時の支援

- ① 「災害時要援護者リスト」の作成・保管
各区は市が交付した「避難行動要支援者名簿」に基づき、民生委員と相談して災害時に支援が必要な人のリスト「災害時要援護者リスト」を作成・保管する。平時に区内において災害時の援護の内容や手順を共有し円滑な援護につなげる。
- ② 「わたしの避難計画」の作成支援
「災害時要援護者リスト」に記載された方は、区長、民生委員、介護者などと相談の上、「わたしの避難計画」を作成し、具体的な避難方法について十分理解し迅速な避難行動につなげる。区長、民生委員、介護者などは、作成を支援する。
- ③ 「緊急時連絡カード」の作成支援
災害時要援護者が緊急時に関係者に速やかに連絡が取れるよう、緊急時連絡カード」の作成を推奨し、作成を支援する。
- ④ マップへの要援護者情報の落とし込み
各区は要援護者の情報マップへの落とし込みを推進する。

8 防災関連施設、資機材、備蓄品

(1) 避難施設

「避難場所」とは、災害から身を守るために一時的に身を寄せる場所をいい、「避難所」とは被災により自宅で生活できなくなったときに避難生活を行う所をいう。

避難所への避難が必要な場合は、長野市の開設の情報を得て避難する。

三輪地区の避難施設

施設名	避難所(屋内) 最大収容人数	避難場所 収容人数	適性			
			洪水	土砂災害	地震	大規模火災
三輪小学校	642	2,745	○	○	○	×
三輪体育館	204	642	○	○	○	×
美和公園	0	5,524	○	○	○	×
長野県立大学 三輪キャンパス	741	741	○	○	○	×

三輪地区外の主な避難施設

施設名	避難(屋内)収 最大収容人数	避難場所 収容人数	適性			
			洪水	土砂災害	地震	大規模火災
城東小学校	675	3,084	○グランド除く	○	○	×
湯谷小学校	776	5,349	○2階以上	○	○	×
柳町中学校	1,150	6,086	○グランド除く	○	○	×
東部中学校	1,297	6,030	○2階以上	○	○	×
城山公園	0	24,300	○	○南東一部除く	○	○

避難所開設支援

三輪小学校及び三輪体育館に避難所を開設する場合を想定して、開設の方法、レイアウト案、備蓄品等が記載されている「三輪地区避難所開設マニュアル」が作成されている。

(2) 防災備蓄倉庫

地区内には、長野市防災備蓄倉庫が三輪小学校に設置されている。

近隣の湯谷小学校、柳町中学校にも設置されている。

三輪小学校には、避難所開設用備蓄品がある。 ⇒ 要確認

なお、資料2に三輪小学校の防災倉庫備蓄品一覧表を、資料3に三輪自治協の備蓄品一覧表を示す。

(3) 防災資機材・備蓄品の相互融通

三輪自治協・各区が所有している資機材は、必要に応じ三輪地区内で相互に融通し合う。

(4) 通報先・情報入手先

内容	連絡先	電話番号／メールアドレス
三輪支所・三輪地区災害対策本部		Tel 225-9567 FAX 225-9647 メール miwa.jichikyo@theia.ocn.ne.jp
火事・救急		119
火事の確認		228-7000（長野市消防局自動応答）
事件・事故		110
災害に関する異常現象の通報	長野中央警察署	244-0110
	長野南警察署	292-0110
	長野市消防局	227-8000
安否確認	NTT 災害用伝言ダイヤル	171（大規模災害のみ）
気象情報の確認	気象庁	http://www.jma-net.go.jp/jma/kishou/info/keitai.html
	長野地方気象台	177 232-2037（気象情報テレホンサービス） http://www.jma-net.go.jp/nagano
	日本気象協会	http://www.tenki.jp
雨量・水位・土砂災害確認	長野市	雨量情報 長野市防災情報ポータル https://www.nagano-bousai.jp/ 223-4003（雨量自動応答） 223-4002（水位自動応答）
	長野県河川砂防情報ステーション	http://www.sabo-nagano.jp
	国土交通省	川の防災情報 http://www.river.go.jp
河川の映像	千曲川河川事務所	http://www.hrr.mlit.go.jp/chikuma/livecamera

(ア) 関係機関

三輪地区住民自治協議会	225-9567
三輪支所	232-2220
三輪公民館	234-4430
三輪小学校	234-1251
城東小学校	234-1227
湯谷小学校	241-2723
柳町中学校	234-2128
東部中学校	241-2271
長野県立大学	217-2241
北野病院	241-0631
長野市土木水道局水道維持課	241-1132
中部電力長野営業所	0120-984-510
長野都市ガス	0120-226-8161
NTT東日本	113

防災の役割分担

	各 区	三輪地区住民自治協議会	長野市・三輪支所
平常時	・地区防災計画の策定 ・避難訓練の実施、 ・災害対策物品の備蓄 ・避難行動要支援者の支援対策策定の検討	・各区の防災活動のレベルアップ ・避難所運営訓練 ・自治協全体で実施する訓練の検討	
災害発生時	・初期消火 ・避難支援、情報伝達 ・安否確認、被災状況の把握 ・避難行動要支援者の支援 ・住民間の助け合い（共助）	・各区から被災状況を収集し三輪支所長に伝える ・避難所の運営、炊き出し、救援物資の配布に協力	・災害対策本部の開設 ・一時避難場所、避難所の開設 ・救援物資の配布
復旧・復興時		・被災者に対する支援 ・復興計画に対する住民ニーズの反映	・復興計画の策定、実施

三輪小学校 防災倉庫備蓄品一覧表

種 別	品 目	規 格 等	配備数	単 位
食料・飲料水	シチュー・ビスケット	1箱60食入りサバイバルフーズ	50	箱
	クラッカー	1箱(70食入り2缶)	2	箱
	炊き出しセット	災害用移動式炊飯器(組み立てタイプ) ひしゃく・お玉ほか	1	器
		ひしゃく	2	個
		お玉	2	個
	飲料水	500ミリリットル、ペットボトル1箱24本入り	17	箱
	緊急用浄水装置	DASCO (DCF-2ER)	1	台
	やかん	容量10リットル	1	個
	バケツ	容量10リットル	10	個
	飲料水袋	5リットル用	400	枚
救 助 資 機 材	紙コップ	205cc	4,000	個
	スプーン	プラスチック製(大)	4,000	個
	革手袋	(M・L)	30	双
	ノコギリ	折込鋸刃渡り270mm	10	本
	カナテコ(パール)	八角φ25mm×1,200mm	10	本
	ハンマー	両口4.5kg	10	本
	救助ロープ	9mmクレモナ10m	10	本
	救助ロープ	9mmクレモナ30m	6	本
	油圧ジャッキ	爪付タイプ、爪荷重2t頭部5t	2	式
水 防 資 機 材	ハンドマイク	最大23Wサイレン付	2	個
	担架	二つ折り式(2m×0.54m)	1	基
	スコップ	剣先型	20	本
	土のう空袋	1梱包200枚	2	包
照 明 器 材	ブルーシート	1梱包10枚入り(5.4m×3.6m)	2	包
	発電機	ホンダ EU26 I	1	台
	投光器スタンド	一脚に投光器2台設置可	2	脚
	投光器	500ワット	4	台
	コードリール	コード30m	2	個
	ガソリン携行缶	容量20リットル	1	缶
ト イ レ	簡易便器	二ード製(テント付き)2式ほか簡易トイレ5式	2	式
	汚物処理剤	800回分(1箱200回分)	4	箱
	トイレトーパー	24巻き入り	1	箱
救 急 ・ 汎 用 生 活 用 品	折り畳みリヤカー	積載荷重150kg	2	台
	簡易間仕切り	ワンタッチ式ファミリールーム(4セット入り)	1	箱
	プライベートルーム	2式入	1	箱
	パック毛布	1箱10枚入り真空パック(1.9m×1.4m)	5	箱
	ブランケット	アルミ毛布1箱60枚入り真空パック	1	箱
	はさみ	多機能タイプ	1	本
	三角巾	特大1.05m×1.05m×1.5m	275	枚
	ネット包帯	頭部用	60	枚
	下着セット	1箱50セット入り(男用・女用)	2	箱
	生理用品	1,000枚入り	1	箱
	カイロ	240枚入り(貼るタイプ2箱+貼らないタイプ2箱)	4	箱
	オムツ	子供用100枚入り2箱・大人用32枚入り2箱	4	箱



※参考写真

備品の名称	数量	単位	ダンボール数	保管場所	使用期限又は賞味期限
発電機 Eu-24i 車輪付HONDAインバーター	1	台	—	西倉庫	
ワンタッチトイレTO-P	4	基	2箱	西倉庫	
災害用排便処理袋200回セット C-200	2	箱	—	西倉庫	
プラスチック製便座	2	台		三輪小設置	
マンホール対応トイレ	1	台		西倉庫	
ダンボールベット NC-C	10	台	9箱 1箱	西倉庫 防災倉庫	
ワンタッチパーテーションファミリールーム WT-120	30	組	4×1箱 バラ×3	西倉庫	
			4×4箱 2×1箱 バラ×5	防災倉庫	
プライベートテント	2	台		西倉庫	
折りたたみリヤカー	1	台		西倉庫	
石油ストーブ(ポリタンク・ポンプ)	1	台		西倉庫	
災害備蓄用フリース毛布 オレンジ	20	枚	2箱	防災倉庫	
備蓄用防じん型LED灯光器	2	基	1箱	防災倉庫	
LEDソーラーランタン	10	台	1箱	防災倉庫	
救急箱アルミケース付き	1	台	—	防災倉庫	
フィット使い切りマスク 3層タイプ 50枚入	20	箱	(1箱)	防災倉庫	
ニトリル手袋 250枚入	20	箱	2箱	防災倉庫	
液体歯磨き 薬用ビュオーラノブライト 400mL	24	本	2箱	防災倉庫	
安心米 白米100g	600	食	12箱	防災倉庫	2026/6
尾西ひだまりパン プレーン	180	食	5箱	防災倉庫	2026/8
ほうれん草の味噌汁 7g	400	食	8箱	防災倉庫	2026/7
温めずに美味しい野菜カレー 200g	210	食	21箱	防災倉庫	2026/7
美味しい防災食 肉じゃが	200	食	4箱	防災倉庫	2026/8
美味しい防災食 鶏と野菜のトマト煮	200	食	4箱	防災倉庫	2026/8
保存食 アルカリ 7年保存水 2ℓ	396	本	66箱	防災倉庫	2028/6
手指消毒液ポンプ式ハントスキッシュEX 800L	20	本	6×3箱 バラ×2	講義室	
マイルディシート 40 20m物	5	巻	—	講義室	